

地域再発見 一宮町 狐新居地区

ウォーキングマップ

きつねあらい

【狐新居】

古墳の集落地村落であった新居は古代民族の発展地であった。本村には狐塚と称する塚名があったことにより狐新居の村名になったと言われている。



(散策所要時間) 約 1 時間

① 山神社 (さんじんじゃ)

山神社は古くは大積寺山入会【注】六か村の鎮守の神だった。他村より狐新居を山ノ神と通称されるのは、この神によるところであり、3月20日が祭日になっている。

② かやの木

山神社境内にある鎮守の森はかつて大木で覆われていた。かやの大木はその中の一本であったが、約50年前の伐採をも免れ、その大きさを誇っている。

③ 三社 (さんしゃ)

明治21年12月、政府の廃社指令により天神宮、浅間神社、山神宮の三社が統合され山神社境内に移された。

④ 石尊さん (せきそんさん)

石尊信仰は古くから伝承され、雨乞いの神として、かつては祭典が行われ石尊の呪文を唱え、六根の汚れを清めた。

⑤ 道祖神 (どうそじん)

一宮町内にある九石道祖神では、最大の大きさで直径700mmの自然石でできている。小正月の火祭り(どんど焼き)は道祖神の祭り。

⑥ 普門院 (ふもんいん)

普門院は曹洞宗(広厳院末)で、本尊は十一面観音である。過去3回の火災にあってその面影はほとんど残っていない。

⑦ 大般若経焼却 供養塔 (だいはんにゃきょうしょうきやくくようとう)

普門院の第二回目の火災は文政12年(1829年)であり、大般若経典も焼失されたことにより焼却供養塔が建設された。

⑧ 箕石 (みし)

中沢正康氏の桃畑の中にある巨大な箕の形をした石で、地域の地名にもなった。季節にかかわらず、上部に水が溜まっていることが多い。

⑨ 花見台 (はなみだい)

花見台からの眺めは甲府盆地を一望でき、絶景。春は桃の花でピンク一色となり、多くの花見客でにぎわう。また、夜景は日本一との呼び声も高い。

【注】大積寺(だいじゃくじ)は中世後半に廃寺になったといわれるが、宗教史上も重要な由緒ある寺院。現在は、「大積寺林道」など地名のみ残る。

